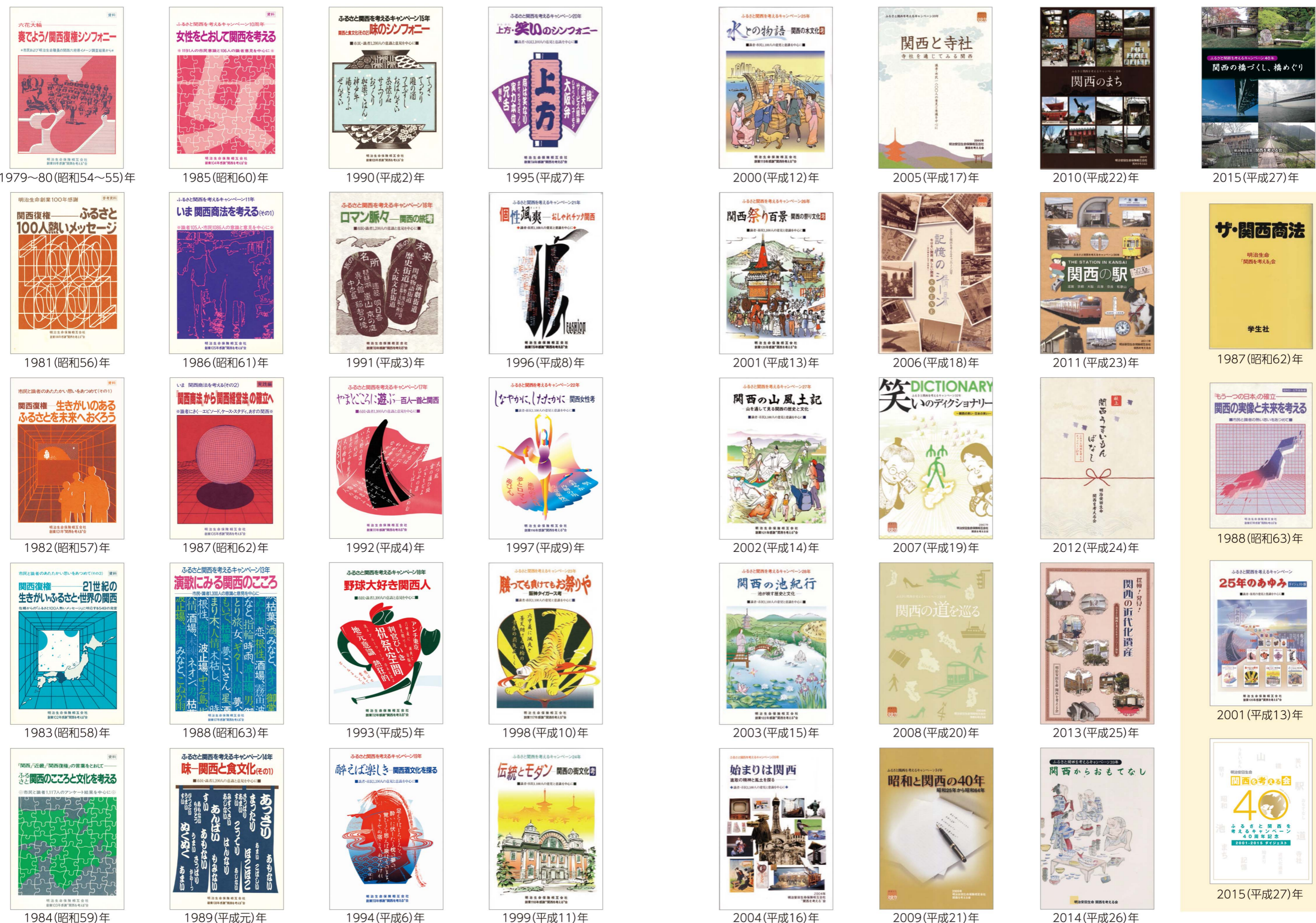


関西を考える会作成冊子の表紙一覧



1979~80(昭和54~55)年

1985(昭和60)年

1990(平成2)年

1995(平成7)年

2000(平成12)年

2005(平成17)年

2010(平成22)年

2015(平成27)年

1981(昭和56)年

1986(昭和61)年

1991(平成3)年

1996(平成8)年

2001(平成13)年

2006(平成18)年

2011(平成23)年

1987(昭和62)年

1982(昭和57)年

1987(昭和62)年

1992(平成4)年

1997(平成9)年

2002(平成14)年

2007(平成19)年

2012(平成24)年

1988(昭和63)年

1983(昭和58)年

1988(昭和63)年

1993(平成5)年

1998(平成10)年

2003(平成15)年

2008(平成20)年

2013(平成25)年

2001(平成13)年

1984(昭和59)年

1989(平成元年)

1994(平成6)年

1999(平成11)年

2004(平成16)年

2009(平成21)年

2014(平成26)年

2015(平成27)年

有識者の声、読者の声

関西を考える会が2015年で活動開始40年を迎えるにあたり、有識者、読者のみなさまよりたくさんコメント(ご意見、ご指摘、ご提案など)をいただきました。温かく、心強いお言葉、若干耳が痛くなるお言葉、厳しいご指摘等、すべてありがたく受け止め、今後の「関西を考える会」の活動に活かしていく所存です。

なお、有識者のみなさまからのコメントは、「関西の橋づくし、橋めぐり」作成にあわせて頂戴し、読者のみなさまからは、同冊子のアンケートにお答えいただいたものです。ホームページではそのなかから、有識者のみなさまからいただいたご意見等を抜粋してご紹介させていただきました。(敬称略)

もっと目立つ、個性のある活動を

- もっと目立つ、かつ個性のある活動を期待します。“目立ってナンボ”なところも大切。(井上満郎 京都歴史資料館長、京都産業大学名誉教授)
- 少し内にももっています。もう少し宣伝につとめてください。(旭堂南陵 講談師、大阪講談協会会長)
- 海外も含めより多くの方に知っていただくと、関西の魅力発信がより広がりますね。(高野弘 水中、水辺のフォトジャーナリスト)
- 講演会やシンポジウム、さらに関西以外の人による「関西を語ってもらう会」など多彩な展開を期待しています。(武部好伸 エッセイスト、作家)
- 中身の濃いこの冊子をテキストとして利用し、興味を誘う現地巡りの企画が組めないだろうか。(三上良樹 NHKカルチャー神戸企画スタッフ)

毎年のテーマについて

- 多彩なテーマで有意義な冊子と存じます。関西と海(瀬戸内海と日本海)をとりあげてください。(上田正昭 京都大学名誉教授)
- 関西は日本文化の礎、エッセンスであり、貴会が刊行された「駅」「おもてなし」等、世界に誇るべきパーツで構成されているという点で活動は意義深い。他にも「庭」「祭」等のパーツは多く、今後も期待したい。(上島秀友 作家・地域史研究家、香芝市理事)
- ステレオタイプの関西論と関西像を打ち破ってください。時には「考える」だけでなく「動かす」ことも射程に入れて。(角野幸博 関西学院大学教授)
- 関西の歴史や風物についての意見をアンケートによってこの世に残すのは、歴史の記録としても貴重です。文化の活性化のヒントとしても、多くの人に利用していただきたいすばらしい活動です。(佐伯順子 同志社大学教授)
- 次はどんなテーマだろうかと楽しみにしています。今後は提案型、未来志向型のテーマを期待したいものです。(高島幸次 大阪大学招聘教授)
- 1つのテーマをいろいろな視点から書かれた冊子を読むと、ふだんはあまりに普通すぎて意識していないモノや事象を、改めて思い返させてもらういい機会になる意義のある活動だと思っています。(辻則彦 フリーライター)
- いつも、一風変わったテーマを選ばれるので、地域の文化をあらためて知ることが多く、意義ある取組みだと思います。(西村隆治 沢の鶴(株)代表取締役社長)
- 前号の特集「おもてなし」の企画は秀逸だったと思います。とくにふだん気のつかない、あるいは知らなかったさまざまなポイントを取りあげてあって、感心させられました。さらに関西の地から文化を発信する機能を増やすために、動きのある活動が市民の目に触れるようになることを期待しています。講演会はその一つになるかもしれません。(藤田真一 関西大学教授)

継続は力

- すばらしい関西にとって貴重な文化です(バブルがはじけたとあって、こういう活動から手を引く企業が多かったですもの)。(あながいおまる 演出家)
- 手間も経費もかかるこのような文化事業を一企業として40年間も続けてこられたのは実に尊いことです。社内理解を得るのも大変だったでしょう。まさに継続は力なり、です。今後にも期待します。(時岡禎一郎 大阪府男女共同参画推進財団理事長)

活動への期待

- 日々の生活のことだけ考えては、いずれ人は人でなくなってしまう。今後も活発な活動を期待しています。がんばってください。(井口健 日吉神社禰宜)
- 現在の日本は、東京を中心とする首都圏への一極集中が加速されていると危惧しております。豊かな歴史と文化を誇る関西の魅力を再発見させてくれるのが「関西を考える会」の活動です。(小野恭靖 大阪教育大学教授)
- 地域に密着し、ジャンルを超えて文化を大切にしていこうという姿勢に共感します。(大江篤 園田学園女子大学教授、地域連携推進機構副機構長)
- 気長に続けていただきたいと思います。地元に住んでいるのに見逃している文化資源はたくさんあるはずですので。(河内厚郎 文化プロデューサー)
- 地域の再発見は住みよいまちづくりの一步、気がついたら隣もやっていたというのはよく聞く話、観光は各地の「光」を「観る」ことですが、地域を「観せる」ためにはほかの状況を知ることが重要で、本誌は大いに役立ちます。(北川宗忠 神戸海星女子学院大学教授)
- 目にみえて効果があるもの、成果が期待されるもの、そうした性急さだけでは文化は育たない。進取のものを取り込み、熟成させ、進化してこそ、伝統が継承されていく。冊子は時代の多層を汲み上げる生きた場として重要と思う。(寺田操 詩人、コラムニスト)
- グローバル化の中でより一層地域資源に関心が集まっている。地域資源は地域の資産であり、誇りであり、アイデンティティそのものである。「関西を考える会」は地域資源の見直しと掘り起こしに大きく寄与している。(西田正憲 奈良県立大学教授)